

令和5年度 第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和5年6月27日（火）午後6時30分から午後8時まで
- 2 開催場所 伊東市役所高層棟8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員14人（欠席3人）
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、理事、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員の委嘱
- (4) 自己紹介
- (5) 閉会

5 会議概要

(1) 開会

企画課長から開会

(2) 市長挨拶

令和5年度1回目の未来ビジョン会議の開催にあたり、御挨拶申し上げます。この度未来ビジョン会議委員に御就任いただいた皆様におかれましては、お忙しい中、本市の行政運営にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

この未来ビジョン会議ですが、私の公約でありまして、若い世代の市民の皆様から、新たな視点による意見やアイデアをいただき、政策の形成や推進に反映させることを目的に設置しているところでございます。平成29年度、私が市長に就任した時から開始し、これまで、子育てについて、新図書館や文化ホールについて、アフターコロナについて、などをテーマに、意見交換を行い、大変貴重なご意見をいただきました。

コロナ禍においては、本会議も通常通りに開催することが難しい状況にありましたが、今年度は、コロナ禍以前のように会議を開催できる環境になり、更には、新しい試みとして、高校生の皆様にも参加いただけることになり、大変うれしく感じております。コロナ禍を乗り越え、新たな価値観による新しい伊東スタイルを進めるため、皆様と共に知恵を出し合い、皆が安心して暮らせる伊東の未来に向け、考えていきたいと思っておりますので、皆様には、ぜひ率直なご意見をお聞かせいただきますようお願いを申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。

(3) 委員の委嘱

小野市長より委員に対し委嘱状交付

※委員の任期は、令和6年3月31日まで

(4) 自己紹介

当局・事務局から自己紹介

【市長】

それでは、座長として会議運営をさせていただきます。ご協力をお願いします。

最初の会議ですので、まず自己紹介と日ごろ生活をする中などで伊東市のまちづくりについて感じている課題や期待していることなど自由にご意見をいただきたいと思います。緊張されている方もいらっしゃると思いますが、この未来ビジョン会議は私と皆様とがざくばらんに意見交換をする場にしたいと考えておりますので遠慮なさらずに率直な意見をお願いします。トップバッターは、A委員お願いします。その後、A委員から時計回りでお願いします。

【A委員】

私は伊東市に引っ越してきて約7年、千葉県から引っ越してきました。子どもが小学生で、そのうち2人が伊東市内のサッカースクールに通っていて、毎日頑張っています。

引っ越してきて思ったことは、公園がなく、子どもが遊ぶ場所がないなと感じていて、学校でしか遊ぶ場所がないなと思いました。

それで、何か作ってあげられないかなと思い、子ども食堂を始めましたが、藤の広場の方でやっているのだから、八幡野地区からは通える距離ではなく、何か八幡野小の付近でもできる何かを作ってあげたいなと思っております。

【市長】

7年前という、そんなに昔のことでもなく、現状にわりと近いかと思いますが、子どもの遊ぶ場がないというご意見がよく聞こえてきます。学校などで遊ぶ場合も多いかと思いますが、行政は子供たちの安全というのを重視しておりますので、安全面も含めて、これから空いている場所などを探して、ポケットパークなど子どもたちが集える場所づくりを目指していきたいと感じました。

【B委員】

私は生まれも育ちも伊東出身でして、現在、三島信用金庫伊東営業部で働いており、普段は、個人や中小企業様を対象に営業として仕事をしています。

大学を卒業して、いざ静岡県の中で就職活動しようと思い、自分の地元である伊東が、戻ってきたい場所であるかを考えたときに、戻ってきたいけれど働く場所があまりないということを感じまして、私の友達も、東京や神奈川などに出てしまう方が多かったのだから、やはり地元に戻って来られるような市に、これから一緒にできたらと思っています。

それから、普段営業として仕事をしていく中で、伊東駅付近にある湯の花通りやキネマ通りの商店街は、昔は非常に栄えていたと聞きますが、今は、私の子供のときよりも人通りは少ないし、廃業してしまう方もいっぱいいると聞くので、三島信用金庫もそうですけれど、伊東市とも一緒に何かをして、廃業しないで、外から人を呼び込むなど、いろいろな取組ができればと思っています。

【市長】

三島信用金庫は、地元の出身の方が多いい金融機関ですので、当市の政策の中でも、いろいろな相談を一番にしてしまうのですが、それに見事に応えていただいております。

それから、学校を卒業しても、希望する就職先がなかなか伊東市内にはないと思いますが、雇用環境を改善するような会議を約6年前から進めており、課題の整理、アピールの方法など、皆さんに意見を出してもらい、産業課がまとめるという会議をやっております。また、講師の先生にも来ていただきまして、いろいろと研究をしていますが、現状、経済は回復途上にはあるものの、雇用はなかなかマッチングしないことから、今後また研究を一緒にしていきたいと思っております。

また、伊東駅付近の二つの商店街が出ましたけれど、湯の花通り、キネマ通り、猪戸通りは最近新しい店舗ができ始め、主に、移住された方が開業しております。最近レトロな街というふうには呼ばれるようになりまして、昭和の匂いがするみたいなことをよく言われるようになってきました。それに甘んじることなく、開業の支援についても、現在もやっておりますけれども、補助金などで応援をしていくという施策を続けていきたいと思っておりますので、また各会議の中でいろいろとご提案いただければと思います。

【C委員】

伊豆伊東高校の2年生で生徒会役員をやらせてもらっています。そして生徒会をやっていると、どうしても最近あった碧春祭の準備などの活動によって、帰る時間が遅くなってしまいます。

私は伊東市内に住んでいるので、帰るのは親の迎えを呼べばそれで解決なのですが、河津や熱海といった遠くの方から来ている人もいらっしゃるもので、そういう人たちがいざ、活動や部活などによって帰る時間が遅くなってしまうと、家に到着するのがとても遅い時間になってしまうという問題があります。

なので、私はバスや電車といった公共交通機関をもう少し改善できたらいいなというふうに考えています。

【市長】

まさに実体験、最近あった文化祭でだいぶ遅くなり、遠方から来ている方のことを考えての発言だと思います。今のご意見は、しっかり東海自動車にも伝えていきます。ダイヤ改正や、民間企業ですから採算面の課題もありますが、行政も交通事業者に応援をしておりますので、それに見合ったものをしっかりと考え出していきたいと思っております。また、この会議の中でいろいろ気づいた点を言っていただければと思います。

【D委員】

伊東商工会議所青年部、気鋭の会より参加させていただきます。商工会議所青年部は、青年経済人という表現の仕方をするのですが、青年経済人としての責任を自覚して、地域の経済発展に寄与するということを基本理念としております。いろいろな事業を行っていますが、中でも小学生を対象にした起業体験プログラム、キャリア教育事業を行ったり、商業高校があったときにはグループディスカッションをして、地元で働きたいかといったテーマについて話し合うといった活動をしております。また市に対する政策提言を、青年部の方でまとめ、数年間、提案を行ってきたこともあります。

普段は税理士業に従事しておりまして、多くの地域の経営者の方々や従業員と関わる機会があります。そういった中で地域の経済や景気に関する多くの声を聞く機会もありますので、この場で意見として発信していけたらと思っております。

私自身生まれも育ちも伊東市ではありません。東京都の江戸川区で23歳まで育って社会人も経験して、伊東には縁もゆかりもないのですが、ハローワークでこちらの税理士事務所の求人があったのでたまたま、こちらに就職させてもらってそれから早17年になります。

私が伊東市について思うのは、大きく分けて2点あります。

東京と大きく違うのは、やはり収入の格差です。様々な業種の従業員の給料を、仕事の都合上、目にする機会がありますが、やはり、20代30代40代の若い方達の収入が低いと感じます。

これでは、子供2人あるいは1人が限界だとか、2人なんてちょっと難しいという、従業員からの声も聞いております。

2点目は、私、十数年前に伊東に来たときに思ったことですが、伊東市の元々いらっしゃる方々の地元愛が強いということはいいいことだとは思いますが、閉鎖的な感じというか、よそ者を受け入れないというような空気感を非常に感じました。

今住んでいるところが元々別荘地で、多くの方々が首都圏から移住して住まわれています。ただ、地域コミュニティに馴染めずに、2、3年したら、引っ越してしまう、あるいは、元々いた場所に帰ってしまう方々も多くいらっしゃいます。やはり、これからは、行政が考えたことを市民一体となって取り組むようなそういった動きをしないと、人口の流出が止められなかったり、経済的な成長ができなかったりすると思うので、どうやったら全市民が同じ方向を向けるような活動ができるのかという点が、私は非常に重要ではないかというふうに思っております。

【市長】

出身は東京都江戸川区ということで、こちらに来ての率直な意見もいただきまして、気づかされる点があるなと思います。

その一点目の収入の点については、やはり地元で就職を探そうというときに、収入で見ると、首都圏で、ある程度名前が通っている企業とでは相当の開きがあると思います。ただ、こよなく伊東を愛するという気持ちを持って、地元に戻ってきていただけるありがたい方もいらっしゃるということだと思います。多くが中小零細企業ですので、損益分岐点を考慮すると、かなり人件費は低くなっているかと思います。また観光地ですので、繁忙期と閑散期の差が激しくなります。このコロナの中でも、国や市の補助がなかったらと思うと恐ろしい状況だったと思います。そういう中でも皆さん、前向きに捉えていただいている。特に経営者の方は、何とか働いている方にもより多く給料を中心に、出していきたいという気持ちはあると思うので、税のプロとして、またご意見をいただければと思います。

それから閉鎖的な感じがあるということで、私も、伊東の中心街、松原で育ちまして、その後焼津の学校に行き、東京に出てから戻ってきました。

結婚して宇佐美で商売を始めましたが、すごくよそ者扱いされていました。年月はかかりましたけれども、今やっと、このような立場にもならせていただいておりますので、やはり自分が溶け込んでいく努力も必要だと思います。決してそんなに人が悪いわけではないと思います。自分がそう感じてしまうところは大きいかなと思うので、疎外感があると感じている方には、そんなことないよというような助言をいただけるとあり

がたいと思います。また気鋭の会の皆さんには、いろいろ政策提言をいただいておりますので、今後も引き続きお願いしたいと思います。

【E委員】

伊豆伊東高校から来ました。まず私の生い立ちから話をさせていただきます。大学4年までずっと静岡市で住んでいまして、教員1年目で縁あって伊東市の方に来させていただきました。過去の記憶をさかのぼると、伊東市の第一印象は観光の街だなというものでしたが、実際来てみると、いろいろな観光スポットを回らせていただきましたが、その中でも、やはり自然がすごく豊かで綺麗だなというところを感じています。

資料の方も拝見させていただきましたが、やはり考えていくべきこととして、若者世代が安心して定住できる環境作りというのは必要であると感じております。先ほど紹介させていただいた観光、具体的には自然環境が豊かだったり、自然を生かした観光産業が発展していたり、様々ありますが、観光業については限定的な産業になってしまいますので、やはりむらがあるかなと思います。強みを生かしていくことは大事かとは思いますが、安定性でいうと年間を通してちょっときつい部分はあるのかなと思います。やはり安定性を取るのであれば、通期的な産業というのも少し伊東市の強みとして一つや二つ発展させていく必要があるかと思っておりますので、こちらについて、何かできないかなというのは考えていきたいと思っております。

あと別の視点としまして、学校でもやはり人口の流出の方は考えています。人口がいる分には、私としてはいいかなと思っておりますので、呼び込む部分と、若者に戻ってきてもらう部分とした二つの視点で考えていく必要があるかと思っております。それこそ、環境がここまで充実していますので、伊東市の魅力を他の町まで発信して、外部の町から人を呼び込む。伊東市に住んでいる若者たちには、戻ってきてもらう選択肢としても伊東市が上がると思いますが、やはり他の町に負けないような、若い人たちが、伊東市の方がいいと思ってもらえるような、土台を作っていく必要があるかと思っておりますので、その点を皆様方と一緒に考えていけたら、充実するのではないかと思います。

【市長】

伊豆伊東高校に来ていただきありがとうございます。

観光地の象徴的な場所は熱海や別府とよく言いますが、そのあたりと比較しても宿泊人数もほぼ変わらない。観光交流の数、日帰りを含めた数で言うと、伊東の方が遥かに多い。これはキャバも倍あるのですが、屋外施設や、日帰りで楽しめる施設も多く、圧倒的に伊東は人気スポットだと思っております。自然を大事にしていきたいと思っておりますので、一つの長所を改めて教えていただいたような気持ちになりました。それから、やはり産業もむらがあるというか、どうしても、観光を主な産業としていますので、例えば夏休み8月1ヶ月で、年間平均の3倍のお客様が宿泊します。その分、来ない月があるという意味ですが、やはり、どうしても難しいのですが、例えばシルバー世代の方には、ウィークデーにサービスを何かつけて、なるべく平準化していくようなことも、これからまたしっかり業界の人と考えていきたいと思っております。

また明日、市議会が閉会日となりますが、議決をいただきますと、観光のための新しい予算がつきます。今、国がいろいろと旅割をやっておりますが、国の政策が終わった時点で止まってしまっただけではないということで、先駆けて、時期は限定せずに、有効

な時期に、お客様にインセンティブをつけるというのをやっていくということで、そこに上手く平日もある程度お客さんが来るような仕組みを作りたいと考えています。これは伊東市全体のテーマだと思っております。

それから人口流出が激しいということで、市内に大学等の高等教育がなく、今やもう大学全入時代ですから皆さん1回外に出ると思っております。その後のことが、先ほどからテーマが出ていますが、思った就職先がないということだと思ひますし、そういう点で言うと、高校の先生方にもご協力いただいて学校に在籍している間に、将来こういう勤め先があるよ、収入は都会と比べると違うけどこういうメリットがあるとか、みんな実家に近い方がいいなど、いろいろな考えがあるとは思ひますが、ぜひそのような教育もしていただければ助かります。

【F委員】

伊豆急コミュニティという不動産や施設管理等をやっている会社から参りました。よろしくお願ひいたします。令和4年度から引き続きの参加ということになります。初めましての方もいらっしゃるかと思うので、少し自己紹介させていただくと、私は伊東の出身ではありません。東京の立川に27歳までおり、生まれも育ちも立川でございます。地方にいろいろ関心を個人的に思っていた中で、藤井聡という教授の影響を受けて、交通まちづくりというものに関心を抱き、来てみるかという考え方になりまして、沼津の方に私結構通っていたので、東部地区で探したのですが、偶然伊豆急行の求人を見つけ、応募したら受かってしまったので、こちらに参った次第でございます。

思ったことを書き連ねたら結構な数になり、できるだけ絞って、申し上げさせていただきますと、最近気になることだと、城ヶ崎分校が閉校になりましたけれども、その跡地活用で地元の住民団体の方々が何かプロジェクトチームをつくってデジタルの産業拠点にするように、伊東市や静岡県に働きかけているようですけれども、この点に関しては、動きがあったのかどうかご存知であれば教えていただきたいのと、現時点で伊東市の要望として何か県に申し入れることや、プロジェクトチームの提言をたたき台にしてワークショップを開くといった側面支援をされた方がいいのかなと思ひています。

最近何か気になる動きですと、伊東市オーガニック給食の会という団体が立ち上がり、伊豆市のオーガニック米を作るNPO団体や、伊東市内の自然食品を扱うレモンの木という店舗と連携して、池や十足でオーガニック米を作る試みが始まっています、オーガニックを給食に採用してもらおうということを目指しているようですが、これも側面支援できないかと思ひています。

先ほどD委員がおっしゃったように、観光が強みでもあるけど、それに依存し過ぎていて、弱みにもなっているところがあるので、例えば産業は言い過ぎかもしれませんが、これが給食として採用されるようになれば地産地消に繋がると同時に、地域外からの需要に依存する経済のレジリエンスの強化に繋がって、安定した需要が継続して存在することにより、農業の担い手も育成できる一つの可能性になると思ひた次第です。

昨年度の会議でもいろいろ話題となっていました、人材不足が問題になっている中で、市内だと介護や旅館業がすごく重要であるが人が足りないという傾向にあるかと思ひます。そんな中で省人省力無人化のための設備投資をご支援されるご意向はないのかなと思ひます。介護であれば夜間の定時巡回負担を軽減するための見守りセンサー付きのシステムや、入居者をベッドから車椅子に移すなどの負担の大きい作業時に使

うマッスルスーツ、宿泊施設だったらスマホQRコードや顔認証でチェックインできるフロントシステム、キャッシュレスの無人決済システムの導入、清掃ロボやルームメイク時に必要な道具を運んでくれるロボの導入など、生産性を向上してくれる設備投資の支援が必要であると思います。人手不足というのは本当に大変な話ですけども、生産性を向上するチャンスでもあり、マクロ経済において生産性の向上こそが経済成長のチャンスと言われていきますので、伊東市には経済を成長させるチャンスが逆に言えばあるとも言えるのかなと思います。

よって、短期では大きな赤字支出でも長い目で見て生産性を向上するのであれば、そのようなところに惜しみなくお金をつぎ込んでもいいのかなと思います。

公共交通に少しだけ触れさせていただければと思うのですが、人不足といえばバス運転手も非常に不足していて、需要はあるのに本数を減らさざるを得ない話も東海バスの沼津の運転手から聞いていますけども、例えば、移住してくる人がバス運転手になったときに、その人に対して転居費用をいくらか出してあげることができないかなと思います。バス会社単体ではないですけど福島の被災自治体が、自治体とタッグを組んで、対象の雇用に応募して移住すると、個人でも120万円、家族なら最大200万円が支給される制度があって、福島交通でその旨の募集がされていました。

また、東京の山岳地帯を走っている西東京バスも転居費用を最大30万円支援するなどしているの、金額、期間、条件などいろいろあると思うのですが、伊東市でも検討されてもいいのかなと思います。

以前私が広報で、もっとバス乗ってくださいって主張されたらどうですかということをお願い、それを聞き入れていただけたのかわからないですけど、4月の広報で取り上げていただいて、私は、あれを見たときに鳥肌が立ちまして、すごく嬉しく思いました。その上での話なのですが、引き続きモビリティマネジメントについては継続的に行っていただきたく、例えば個人の動機にこれを訴えたらどうかと思います。

大都市圏より地方の方が、肥満率が高いです。それはなぜかということ、厚労省も言っているのですが、車社会で日常の運動をしていないことが原因で肥満率が高まるということです。例えばバスや鉄道で通勤する人の肥満率が19%なのに対して、車通勤はそれに比べて50%近く増えて28%にまで上昇しているということです。

車利用は肥満化を促す一方で、公共交通利用は健康的な体を作る一つの理由にはなるということを広報で周知すること、車を1日10分控えるだけで年間588キロのCO2削減できること、あるいは熱海警察署が最近発表した調査で、車に係る経費と比較すると、1日1.5キロの範囲内なら252日のタクシー利用が可能で、往復でタクシーを使っても3日に1回はタクシーで移動できることなど、何か個人の動機に訴えてもいいですし、公共交通と徒歩を組み合わせて出かけてみることにつながるのかなと思います。

あと前回、昨年度の第3回会議で公共交通の地元割をやってくれという意見があるのを議事録で確認していますが、私どもと私個人としても大いに賛同致したいです。弊社はそのようなスタンスでないのが非常に残念ではあるのですが、本当に恥ずかしいし申し訳ない限りなのですが、そのような部分を、伊東市の方で後押ししていただくことは大いに賛同いたしたいです。

公共交通というのは都市における水平エレベーターのようなもので、マンションにエレベーターがなかったらマンションの価値なんてなくなってしまうように、都市でも同じことが言えると思います。

例えば近江鉄道の沿線自治体では、2ヶ月の期間を設けて500円乗り放題特別切符を実施し、鉄道および定期券を購入した学生に対しては、期限付きではありますが、1人5000円分の地域商品券を発行するなど、利用促進や利便性の強化に繋がる取組がなされているので、今後の参考にされてもいいのかなと思いました。

最後に、前回の第3回会議で、赤沢のデマンドバスの利用が低迷していると市長から発言があったことを議事録で確認しましたが、例えば大分県の豊後大野市では、大人の社会見学というのをやられていまして、大分大学や高校生に企画を任せ、主導させ、例えば既存のデマンドバスやコミュニティバスを利用した買い物レクリエーションについて、オリエンテーションなども含め、予定を立てて1日ツアーを行い、それにより、デマンドバスの周知や外出支援に繋げています。

その一方で、教育面でもいろいろな経験をさせられるので、良い効果をあげているという話を聞いたので、この豊後大野市の大人の社会見学を参考にされてもいいのかなと思った次第です。よろしくお願いいたします。

【市長】

全部答えていくと時間がないので、かいつまんで申し上げますと、城ヶ崎分校の跡地については、県もいろいろと協議をさせていただいておりますが時間がかかってしまっております。市からもプッシュしております。

それからオーガニック給食について、伊東市としてできることからやりましょうということで昨日お話をしたところでございます。

それから人材不足にあたって例えばITを使った無人化の取組ということになるかと思いますが、こちらへの補助などは今のところまだ特にはないのですが、今後また検討していきます。

それからバス運転手の不足について具体的にありましたけれども、全ての産業が人材不足でして、今は介護や医療など福祉関係の移住のための補助金は、もう4年目になりましたけれども、かなり成果を上げておりますので、財源を見極めながら、移住のための補助をしていきたいと思っております。

それから肥満率の話も出ました。私も出張で東京など行きますと、万歩計で軽く1万歩以上、大体1時間フルで歩くと8000歩ぐらいだと思うのですが、普通に2時間ぐらい歩くのかなという感じがします。地元にいると、ほぼ2000歩といった感じですが、ご提言いただいて大変参考になりました。

あと交通事業者が、地元割という形で、例えば伊豆急沿線どこまでいってもワンコインという日を、また設定していただくなど、今後また考えていただければと思います。

それから、デマンドタクシーにつきましては、ご希望が多いように思ったので試験的にやりましたが、乗合で予約制ですから普段のタクシーの利用と違って、知らない方も一緒に乗ったりするわけです。そのようなことも含めてまだ研究をしないと、なかなかフル活用できないような状況ですが、しっかり検討していきたいと思っております。

【G委員】

J Aふじ伊豆農協伊東地区本部、金融課から参りました。私のは、出身、育ちも伊東市ではありません。現在の居住も伊東市ではございません。しかしながら、十数年、J Aふじ伊豆に勤務しております、伊東市のフィールドでお仕事をさせていただいております。その観点から申し上げていきたいと思っておりますし、近い将来、伊東市に引っ越そうと妻と相談もしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の方から2点ほどお話をさせていただければと思います。

伊東市のこの未来ビジョンといったところをキーワードに2点挙げさせていただきませんが、1点目、まず、J Aを代表してきていますので、その観点から申し上げますと、やはり農業漁業を中心とした一次産業の衰退が課題です。私も今日実際現場の方に若い職員と出て、農家のところ回ってきたところですけども、やはり一次産業の衰退が如実に進んでいます。一言で申し上げても、全国津々浦々いろんなところと比較できると思います。ただ、隣の伊豆の国市や三島函南については、ちょうど、我々も1年前に、東部8 J Aで合併をいたしましたので、その辺の情報共有というのが幅広くされています。その中で比較してみますと、やはり、他近隣市町村と比べて、農業漁業、この1次産業の衰退が如実であると危機感を感じているところでございます。

2点目は、金融機関の職員として申し上げますと、金融リテラシーの向上です。先ほどC委員がおっしゃってございましたけれども、やはり政策として収入を上げていくといったところも大事ではありますが、我々一人一人としても、リテラシーの向上をしていくことによって、詐欺に遭う人を減らしていく、または、高校生に今日来ていただいておりますが、若い方が自分の力でこれから未来を切り開いていくという観点でも、そういう金融のリテラシーの向上というのは、他に三島信用金庫の方もおりますけれども、我々J Aとしても金融機関として急務なのかなと考えています。

また、そういうことを市政と一緒に取り組めれば、市民の皆さんの発展といったところにも繋がっていくのかなというふうに感じております。

以上2点でございます。ありがとうございました。

【市長】

今2点ご指摘いただきましたが、1点目の一次産業については、専業で生業が立っている方は全体の2.4%しかいないのが伊東市の特徴です。あとは兼業、あるいは一部観光農園のようなものを含んで専業になっていますので、ほぼ出荷物で生活ができず、ご存じのとおり、田も一部しかなく、主には、柑橘類であり、野菜などは生活を立てるほどには収入にならないという状況です。ご存知だと思いますがアイランドルビーの生産なども、有志の方に進めていただいておりますけれども、なかなかまとまった収穫ができないままであります。

漁業も、かなり高齢化が進んでいて、例えば割に好調な定置網については、若い方もこの度入ってきたのですけれども、平均年齢はやはり50代、年配の方は70代の方もいらっしゃるようで、非常に厳しい環境にあります。そう言っていられませぬので、皆さんのお力をお借りしながら、間口を広げていきたいというふうに思います。

また、金融機関の務めとしての金融リテラシーの向上につきましては、伊東市としても積極的に取り組む必要があると考えており、今後また協力をしていく中では、皆さんにいろいろなことをお知らせする方法を考えなければいけないというのが最大のテーマです。

先ほど広報の話が出ましたけれども、全部の世帯に配っていても1割ぐらいの方は全く見ていない、例えば新聞とかも全く読まない、あるいはテレビも、ほとんどニュースは見ない、唯一スマホやSNSの情報のみという方がすごく増えておまして、お伝えしたい情報をなかなか伝えきれない社会環境になっておりますが、またいろいろと協力をしていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

【H委員】

私は、いとう子育てネットワーク・ゆうというところから参りました。ゆうでは預かりをしたり、移住者のお母様方のお話を聞いたりということをしてありますが、私は、松原八幡神社の禰宜をやっております、神主でもあります。仕事をしておまして、感じたこととしては、子育てネットワーク以上に、神社での移住者の方々との関わりが大事だと思知りしました。

なぜかと申しますと、まず引っ越してきた移住者の方々が、この土地によりしくお願いしますと頭を下げに来るのは、役場の前に神社なのです。これに驚きましたが、まず、この土地がどういった場所なのか知りたいとのことで、心配事や子育てについて直接お話する機会が多い。

そして妊娠出産というふうにつながっていくこともありますけれども、必ずその時期でお宮参りに行くわけですね。

で、安全祈願子育て祈願をやってから生まれてきました赤ちゃんについては、100日のお参りにいらっしゃるなど、ずっとその一族と関わっていくわけです。また、皆様移住者なので、都会の方からご親戚が多くいらっしゃいます。

そしてこの街の住みやすい点といえば、人口が少ないので保育園に入りやすいということが一つあります。中学校、高校というと非常に限られたものになりますが、乳児の方はなかなか良いみたいで、そこまでは皆さん安心しているとは思いますが、一方で、病院や小児科が少ないという点があるわけですが、大きくなっていく段階で、お祭りや行事がありますが、子供会がどんどん潰れていってしまう。そして神社や町内会、それから元々地元の方がやっていた年中行事のお誘いもだんだんなくなってくる。差別されているのではないとか閉鎖的だという話も、もちろん自分も感じたことあるのですが、そんなことも言っていられないので、神輿を担ぐこと、さんやれ祭りや、巫女さんも、高校生の方もいらっしゃるのですけれど、どんどんこちらからも動こうとしています。お宮がじっとしているのではなくて、もう神主が走り回ってやろうじゃないかという感じに今自分はなっています。

それで、神主が積極的に消防団とか奉仕団、祭典の参加など、新しく移住してきた方にもどんどん声かけをし、他の地域の方にもどんどん声をかけ広がりが生じています。伊豆高原や大室高原の方で別荘を持っている方々は日本人だけではなく、海外の方もかなりいらっしゃって発信力が強く、そして大きなお屋敷に住んでおり、呼び寄せる人も多く、有名人も来てくれるという特徴があります。今回、別荘にいた間にお祭りを見ていただいて、4年ぶりに、松原の神輿が海に入りました。それを見てその方は涙していました。1回アメリカ、ニューヨークに帰ったのですけれど、ちょっと参加させてくれ、旗持ちで行列に入れてくれという申し込みがニューヨークからありました。いや動いてよかったなど。もう一つ、カンヌ国際のマリンプロジェクトの方で賞を取った方が、やはりこちらの方に別荘を持っていて、祭りを見た。奥さんが日本人なのですけ

れど参加させてくれというようなことでした。発信力というのも、もちろん神社のできることでですから限られ、狭くちょっと見えにくいところもあるのですけれども、自分も帰国子女で主人も外国人なので、このような広げ方で、待っているだけじゃなくてアクションをかけて動いてみるのも面白いかなあということが、私の視点です。皆さん非常に深く経済的にも結びついてはいるのですけれども、自分ができることとして自分の仕事と今、直結している見方という、このような感じかなと思います。町内会に入りにくい、消防団に入りにくい、お神輿を地元の人しか担げないのではないか、いやもしかしたら地元の人もびびって怖く、禊をやるのも嫌だから冗談じゃない、そんなふうになっているのですけれども、結構勧誘して、去年も東京の麻布十番に住んでいた男の子が担いでくれて大成功しまして、その子がまたそちらから引っ張ってきてくれるという、うまい相乗効果を生んでいます。私と主人は地元にはいた人ではないし、代々の家もゆかりもなかったし、まして私の旦那は地球の裏側から来ていますし、あるいは私も世田谷の江戸の出身で、中高と外へずっと行っていましたが、そういう視点からすると、とにかく閉鎖的だなというところがあって、伊東に住んでいるのなら外国に住んでいる方が楽だと思っていたのですけれども、まあいいじゃないですか。よく考えてみると、ここは国立公園で、すごいところに住んでいると思ったときに、ちょっと何か皆と考えるところからやるのが大事だと思っています。未来ビジョン会議については、第一回目に初めて市長がやったときから、リサーチしてきました。結構また同じような意見がどんどん出ているので、その中の一つでも、前進できたらいいのかなぐらいの気持ちで、今日は、お話をさせていただきました。

【市長】

すごく視点が違うところからお話いただいたと思います。皆さんも神社には、いろいろな場面で行かれると思います。年中行事でも、年頭に行くことが多いと思いますし、私自身も松原で、今まさにH委員が言っていたお神輿を10代から30歳ぐらいまでやっています、思い入れが強い地区であります。今の話は、初めて聞いたのですけれども、市役所で転入届を出す前に神社に行く人がいるというピュアな気持ちを、すごく大事にしたいなというふうに思いました。大変貴重なご意見だったと思います。

【J委員】

私は静岡市が出身でして、大学のときに富士市に4年間通い、大学を卒業した後に、浜松市に1年住んでおりました、いろいろあって、伊東市の方に引っ越しをしてきて今6年ぐらいになっております。静岡県内のいろんなところを見てきたということもあります。そういったところも今後の会議の中でお話ししていければなと思っています。今、NPO法人R-SHIPとして、湯の花通り商店街とキネマ通り商店街に店を構えており、駅前メインで活動しております。Itomulshetというマルシェイベントとかを行いながら、伊東の地域を活性化しようと活動している団体であります。

伊東市の感じる場所ですけれども、やはり観光の街という側面の色の濃さと、ただそれに反して、観光で来る方々、観光を生業にする方々とは別に、その地域に根付いている方々の生活という側面もすごく大事な場所だと思いますので、より伊東市がこれから盛り上がっていく、活性化していく、地元に住んでいる方が地元を好きになる、戻ってくるためには、観光としてのにぎわいと、伊東市に住む方々の住みやすさとしてのに

ぎわいをやはりこの二つが、大切になってくるのではないかなと思います。普段生活している中で、今まで住んできた地域や仕事でいろんなところにも行きますが、その中で感じているものがございます。先ほどのC委員のお話にもありましたが、どのようなところに力を入れていけばいいのか、もちろん行政の方々は常日頃いろいろなことを考えていただいているいろいろな取組をしていただいているのですけれども、先ほど市長の話にもあったとおり、実は熱海と宿泊の数はそんなに変わらず、伊東に来ている人は熱海より多いということを私、聞いてびっくりしました。

ちょっと勉強不足だったのですけれども、ただ、普段駅前商店街で活動をしていると、周りの方々から、正直静かだよ、熱海に負けていると言われます。熱海みたいになりたいねといった声を聞く中で、実は熱海より人が来ているという情報を、地元の方も仕入れることができていない。また、地元の方がどう思っているかということも、やはり行政の方に正しく伝わるべきだと思いますし、行政は実はこんなことをやっているということも、今回の未来ビジョン会議でこのような場を設けていただいて、お話を聞かせていただいたから私が気付けたように、情報を交流する場がとても大切になるのではないかなと考えております。

ですので、未来ビジョン会議というこの場もそうであり、ちょっとはっきりとまだ自分の中で意見はまとまっていないのですけれども、こんなことをやっている、こんなことをやりたいといった行政と市民との交流の中から、より良い活動が生まれるのではないかなと思っております。

【市長】

すごく具体的だなと思いました。観光地ではありますけれど生活者がいる、ということだと思いますし、また地元をどのように好きになっていただけるか、それによって例えば収入が少ないこともカバーし、いろんなもっと良い点もあるということ、アピールできるようにしたいなと思いました。また熱海と対比する方が非常に多いです。特に駅のぎわいが、熱海市は駅に集中していますので、私も毎日のように言われます。伊東駅の改修の予定もありまして、令和7年度ぐらいから工事になり、少しずつ形を変え、人が滞留できるようなゾーンを多くとることになり、熱海に似ているような、少し人が集まれる場所が変わっていくように思っておりますので、またそういった場面ではご意見を伺うと思います。

情報をどうやってお伝えするかというのは、これが一番難しいわけですし、私ももう毎回色々な場所ですべていろいろなことをお伝えしていますが、意外に皆さん聞いてないあるいは聞き流していることが多いです。今日改めて申しますと、クーポン券を発行し、9月の半ば頃多分、皆様のご自宅に届くこととなります。プッシュ型で、例えば5,000円分買うと1万円分ではなくて、一人当たり6,000円、1世帯に、例えば3人いれば3冊のクーポン券が届くこととなります。

これも、明日の議会で議決されて決まるのですが、おそらく口を酸っぱく言っても、何なのこれ、押し売りじゃないよね、みたいな声も出てくると思うのですが、いかに伝えることが難しいかということを感じておりますので、また一緒に研究していきたいなと思いました。

【I委員】

私は去年城ヶ崎分校に入学して、今、伊豆伊東高校に通っています。去年城ヶ崎分校と卒業生と中学生で、シャッター通りのイベントを行いました。

その時、商店街や伊東市を賑わせていこうという活動で、若い世代や中高生との協力ができる活動を、また私自身やっていけたらいいなと思っています。

あとは今、授業内で伊東市の探究活動を行っているのですが、私は教育の探求チームに所属していて、伊東市の人から話を聞いたりチーム内で話をしていると、少子高齢化の問題と学校の数やクラスの人数が減って寂しいよねとか、外で遊ぶ人がいなくて、やっぱ遊ぶ場所も少なくなっているから、ちょっとにぎわいがまた減ってきているのではないかと、という話をしています。

そういった授業内での活動と、この未来ビジョン会議の活動をリンクさせて私は考えていきたいなと思っています。

【市長】

シャッターのイベントの際には私も激励に行きましたが、夜遅くまで素晴らしいアートをやっていたらいいなと思います。今も、シャッターが閉まっているときも何かワクワクするような通りになりました。今後希望がある商店街にも仲介していくので、ご協力をお願いしたいと思います。また、中高生のそういった協力を進めていただくためにも I 委員にもご協力をお願いしたいと思います。

また、外で遊べるようなものについて、色々ご意見をいただいております。今後、どんなことがいいのか、娯楽施設が伊東にあればいいなとか、高校生からはよくお話があります。企業は冷静に見ていますので、できるかどうか、そういうところになってくるのですが、ご意見として伺えれば、また行政としてできることをやっていきたいなというふうに感じております。ありがとうございます。

若干早いので、ここに座っている伊東市の幹部の、理事、教育長、副市長の順にお話をしたいと思います。

【理事】

私も、今年の4月から伊東市役所に勤務となりました。それまでは静岡市で勤務をしてきたところでありまして、育ちも伊東市ではなくて今現在も、沼津市から通っております。

私の家庭の話で言いますと、子どもが、なかなか勉強する場がないというところで1回東京に出まして、東京で就職をするかなと思ったら、地元に戻ってきたいということで戻ってきたのですが、なかなか沼津でも、本人が希望する働く場所がないと。学校で勉強してきたことがなかなか活かさないということで、働く場所を探すのは、今いろいろと人材不足と言われてはいますが、若い人が働きたいと思っている場所と、実際に企業側が求めているところで、うまくマッチングができていないのかな、というところはすごく感じるところです。そんな中で、今現在も子供の方は自分がやりたい仕事をということで、ハローワークの方に通っておりますが、やはりなかなか首都圏とは違って、働き口がないというのは、私もちょっと痛感をしているところでありまして。実際に私、まだ伊東市に来まして、4月からなので、3ヶ月ほどしか経っていませんけれども、その中でも、元々県の職員として働いていたのですが、今年から伊東市の職員として来ているというところでもありますので、私が一番できるかと思っています。

ることは、県と市のパイプ役というところを強く意識して仕事をしていきたいなというふうに思っております。その中でも、伊東市の中で抱える課題であったり、必要なことがあれば、自分からしっかりと情報を取りに行ったり、それぞれ顔の見えるところできっととお話をして、意思疎通を図って、少しでも伊東市のためになればいいかなというふうに思っております。

私もこの未来ビジョン会議に今回初めて出席をさせていただいているのですが、皆様若い方たちが、しっかりとのご意見を持っていらっしゃる、というところで、今後、長丁場で年明けまでこの未来ビジョン会議が続くと思います。その中で私も、何か少しでも皆様のお役に立てればというふうに思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

【教育長】

今日はありがとうございます。皆さんの話を聞いていて、本当に勉強になりました。自分と視点が全然違うところもありまして、本当にいろんなお考えをお持ちだなということで、これからいろんな議論をして、教育のことも話をして、また皆さんからの意見を聞いて、この未来ビジョン会議が良い会議になって行けばいいかなということを思っています。教育委員会は4つの課がありまして、教育総務課、教育指導課、それから幼児教育課と生涯学習課と幅広くいろいろやっておりますので、また皆さんからいろんな意見を聞きながら、一緒にやっていくようにしていきたいなと思っております。今日は本当にありがとうございました。

【岸副市長】

それでは今日はありがとうございました。私も4月から副市長という席に身を置くことになりまして、それまでは教育長と一緒に13年間教育委員会にずっとおりまして、子供のことをずっと担当していました。

市役所に入ったのも、おせっかいな性格とか、人生を楽しみたいとか、何かより良い改革をしたいとか、そういう思いがあり続けた結果、あっという間に、このまま教育委員会で終わると思っていたら、伊東市で初めての女性の副市長ですということで市長からお話をいただいて、今この席にいるような状態です。

今、高校生の方がお話をしているのを見ると本当にいいなあって思うのですよね。私も実は高校から沼津に出てしまった人間なので、伊東の良さを感じるまでに少し時間がかかったなあというのがちょっとありますので。ただ、私がこの席にいるということが私の力とかでは全然なく、これまでずっと伊東市政が始まってから、女性の先輩方が女性目線で市政を見てきた結果として、たまたま私が令和5年にこの席にいるということのバトンをもたまたま皆さんにお渡しできると嬉しいなと思っておりますので、ぜひこの機会を活用して、いろんな意見を交換できれば嬉しいなと思っております。今日はありがとうございました。

【中村副市長】

私は、この未来ビジョン会議については当初から関わらせていただきまして、ずっとここで出席をさせてもらっています。今回が一番若い皆さんが集まったなあというのが正直な感想でございます、その分、期待値も一番大きいというところでございます。

今日皆さんからお話を伺いました。遊ぶ場所が少ない、働く場所が少ない、街中が寂しい、公共交通機関が乏しい、収入が少ない、産業構造が厳しい、人手不足、一次産業が衰退している、情報発信力に欠けている、情報の共有がない、いろんな課題をご指摘していただきました。まさにその通りだというふうに思っています。

まさに私たち、行政の仕事というのは、このようないろいろな課題を、少しでも良くしていく、課題が少しでも少なくなる、そのために努力するというのが一番大事なことというふうに思っています。

ただ、大事だけれども、なかなか解決できなくて今日に至っている、というところが正直なところでございます。ということで、皆さんに期待する思いが非常に大きいです。何とか皆さんのお知恵をかりまして、一つでもこの課題が解決できるように、忌憚のない議論を期待しているところでございます。

【市長】

ぜひまたいろんなご意見を、その場で思いついたことでも結構ですから寄せていただければと思っております。

それでは、事務局から今後の運営について説明がありますので、それをもって終了とさせていただきます。

- (5) 閉会
事務局から今後の運営及びスケジュールについて説明。

以 上